

# フランツ・カフカ研究 メタフィクション研究 文字と物語の関連の研究

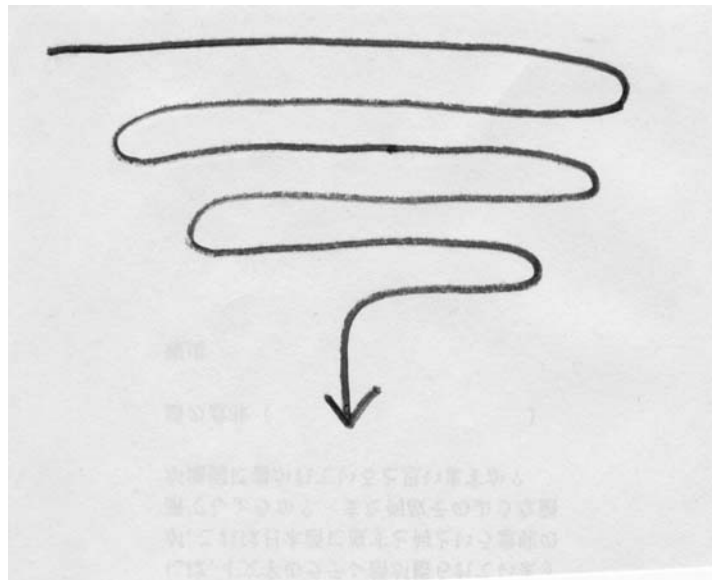
名前 吉田 芳弘

役職 准教授

学位 文学修士

文学作品が文学的活動自体を意識するとき、紙やペンや文字や原稿などが、物語のなかで様々な形態で顕現する。このような所謂メタフィクションの観点から、カフカを考察する。

なにも『トリストラム・シャンディ』に倣うわけではありませんが、例えばフランツ・カフカの晩年の短篇『最初の悩み』などは、こんな風に構成されているのです！ 主人公の軌跡と手稿で文字が綴られる場所が函数関係にあるのです。文字が、1枚の紙の上に、右から左に向けて横書きに綴られ、行が、上から下へと縦に並べられるという物理的出来事が、物語の内容と連動しているのです。一般に、フィクションがフィクションにまつわる様々な事物(紙、ペン、文字、原稿、編集、出版、批評...)をフィクションとして内部に取り込んでいるのが「メタフィクション」ですが、カフカの作品群は、このような文学の伝統に位置づけることができるのです。



専門分野:ドイツ文学

技術協力・相談分野:文学に関する講演

連絡先 tel:0738-29-8299 e-mail:techno@wakayama-nct.ac.jp